

平成29年度 神戸大学2次試験前期日程(数学問題)120分  
理・工・医(医・保健(検査技術科学))・農・  
国際人間科学(環境共生(理科系))・海事科学

問題 1 2 3 4 5

1  $n$  を自然数とする.

$$f(x) = \sin x - nx^2 + \frac{1}{9}x^3$$

とおく.  $3 < \pi < 4$  であることを用いて, 以下の問に答えよ.

- (1)  $0 < x < \frac{\pi}{2}$  のとき,  $f''(x) < 0$  であることを示せ.
- (2) 方程式  $f(x) = 0$  は  $0 < x < \frac{\pi}{2}$  の範囲に解をただ1つもつことを示せ.
- (3) (2)における解を  $x_n$  とする.  $\lim_{n \rightarrow \infty} x_n = 0$  であることを示し,  $\lim_{n \rightarrow \infty} nx_n$  を求めよ.

2  $n$  を自然数とする. 以下の問に答えよ.

- (1) 実数  $x$  に対して, 次の等式が成り立つことを示せ.

$$\sum_{k=0}^n (-1)^k e^{-kx} - \frac{1}{1+e^{-x}} = \frac{(-1)^n e^{-(n+1)x}}{1+e^{-x}}$$

- (2) 次の等式をみたす  $S$  の値を求めよ.

$$\sum_{k=1}^n \frac{(-1)^k (1 - e^{-k})}{k} - S = (-1)^n \int_0^1 \frac{e^{-(n+1)x}}{1+e^{-x}} dx$$

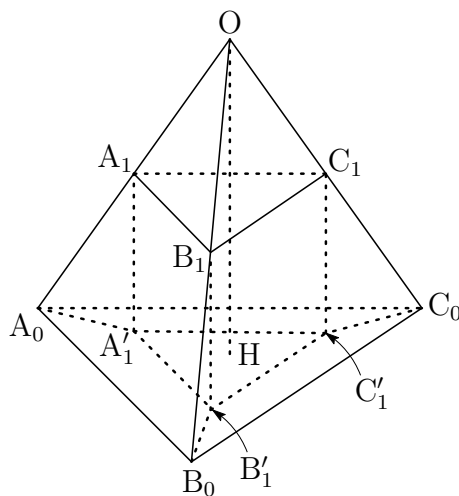
- (3) 不等式

$$\int_0^1 \frac{e^{-(n+1)x}}{1+e^{-x}} dx \leq \frac{1}{n+1}$$

が成り立つことを示し,  $\sum_{k=1}^{\infty} \frac{(-1)^k (1 - e^{-k})}{k}$  を求めよ.

**3** 1辺の長さが $a_0$ の正四面体 $OA_0B_0C_0$ がある. 図のように, 辺 $OA_0$ 上の点 $A_1$ , 辺 $OB_0$ 上の点 $B_1$ , 辺 $OC_0$ 上の点 $C_1$ から平面 $A_0B_0C_0$ に下ろした垂線をそれぞれ $A_1A'_1$ ,  $B_1B'_1$ ,  $C_1C'_1$ としたとき, 三角柱 $A_1B_1C_1-A'_1B'_1C'_1$ は正三角柱になるとする. ただし, ここでは底面が正三角形であり, 側面が正方形である三角柱を正三角柱とよぶことにする. 同様に, 点 $A_2, B_2, C_2, A'_2, B'_2, C'_2, \dots$ を次のように定める. 正四面体 $OA_kB_kC_k$ において, 辺 $OA_k$ 上の点 $A_{k+1}$ , 辺 $OB_k$ 上の点 $B_{k+1}$ , 辺 $OC_k$ 上の点 $C_{k+1}$ から平面 $A_kB_kC_k$ に下ろした垂線をそれぞれ $A_{k+1}A'_{k+1}$ ,  $B_{k+1}B'_{k+1}$ ,  $C_{k+1}C'_{k+1}$ としたとき, 三角柱 $A_{k+1}B_{k+1}C_{k+1}-A'_{k+1}B'_{k+1}C'_{k+1}$ は正三角柱になるとする. 辺 $A_kB_k$ の長さを $a_k$ とし, 正三角柱 $A_kB_kC_k-A'_kB'_kC'_k$ の体積を $V_k$ とするととき, 以下の間に答えよ.

- (1) 点 $O$ から平面 $A_0B_0C_0$ に下ろした垂線を $OH$ とし,  $\theta = \angle OA_0H$ とするととき,  $\cos \theta$ と $\sin \theta$ の値を求めよ.
- (2)  $a_1$ を $a_0$ を用いて表せ.
- (3)  $V_k$ を $a_0$ を用いて表し,  $\sum_{k=1}^{\infty} V_k$ を求めよ.



- 4  $\vec{v}_1 = (1, 1, 1)$ ,  $\vec{v}_2 = (1, -1, -1)$ ,  $\vec{v}_3 = (-1, 1, -1)$ ,  $\vec{v}_4 = (-1, -1, 1)$  とする. 座標空間内の動点  $P$  が原点  $O$  から出発し, 正四面体のサイコロ (1, 2, 3, 4 の目がそれぞれ確率  $\frac{1}{4}$  が出る) をふるごとに, 出た目が  $k$  ( $k = 1, 2, 3, 4$ ) のときは  $\vec{v}_k$  だけ移動する. すなわち, サイコロを  $n$  回ふった後の動点  $P$  の位置を  $P_n$  とし, サイコロを  $(n+1)$  回目によって出た目が  $k$  ならば

$$\overrightarrow{P_n P_{n+1}} = \vec{v}_k$$

である. ただし,  $P_0 = O$  である. 以下の問に答えよ.

- (1) 点  $P_2$  が  $x$  軸上にある確率を求めよ.
  - (2)  $\overrightarrow{P_0 P_2} \perp \overrightarrow{P_2 P_4}$  となる確率を求めよ.
  - (3) 4 点  $P_0, P_1, P_2, P_3$  が同一平面上にある確率を求めよ.
  - (4)  $n$  を 6 以下の自然数とする.  $P_n = O$  となる確率を求めよ.
- 5  $r, c, \omega$  は正の定数とする. 座標平面上の動点  $P$  は時刻  $t = 0$  のとき原点にあり, 毎秒  $c$  の速さで  $x$  軸上を正の方向へ動いているとする. また, 動点  $Q$  は時刻  $t = 0$  のとき点  $(0, -r)$  にあるとする. 点  $P$  から見て, 動点  $Q$  が点  $P$  を中心とする半径  $r$  の円周上を毎秒  $\omega$  ラジアン割合で反時計回りに回転しているとき, 以下の問に答えよ.
- (1) 時刻  $t$  における動点  $Q$  の座標  $(x(t), y(t))$  を求めよ.
  - (2) 動点  $Q$  の描く曲線が交差しない, すなわち,  $t_1 \neq t_2$  ならば  $(x(t_1), y(t_1)) \neq (x(t_2), y(t_2))$  であるための必要十分条件を  $r, c, \omega$  を用いて与えよ.

## 解答例

1 (1)  $f(x) = \sin x - nx^2 + \frac{1}{9}x^3$  より

$$f'(x) = \cos x - 2nx + \frac{1}{3}x^2,$$

$$f''(x) = -\sin x - 2n + \frac{2}{3}x$$

$0 < x < \frac{\pi}{2}$  のとき,  $\pi < 4$  に注意して

$$f''(x) < -2n + \frac{2}{3} \cdot \frac{\pi}{2} < -2 \cdot 1 + \frac{\pi}{3} < -2 + \frac{4}{3} = -\frac{2}{3} < 0$$

$$(2) f'(0) = 1 > 0, f'\left(\frac{\pi}{2}\right) = -2n \cdot \frac{\pi}{2} + \frac{1}{3} \left(\frac{\pi}{2}\right)^2$$

$$= -\pi \left(n - \frac{\pi}{12}\right) = -\pi \left(1 - \frac{\pi}{12}\right) < 0$$

(1) の結果から,  $f'(x)$  は単調減少であるから, 上の結果により

$$f'(\alpha) = 0 \quad \left(0 < x < \frac{\pi}{2}\right)$$

を満たす  $\alpha$  が唯一存在する.

$$\text{また } f(0) = 0, f\left(\frac{\pi}{2}\right) = 1 - n \left(\frac{\pi}{2}\right)^2 + \frac{1}{9} \left(\frac{\pi}{2}\right)^3$$

$$< 1 - \left(\frac{3}{2}\right)^2 + \frac{1}{9} \left(\frac{4}{2}\right)^3 = -\frac{13}{36} < 0$$

したがって,  $f(x)$  の増減表は

$x$	0	...	$\alpha$	...	$\frac{\pi}{2}$
$f'(x)$		+	0	-	
$f(x)$	0	↗	極大	↘	$f\left(\frac{\pi}{2}\right)$

よって, 方程式  $f(x) = 0$  は  $0 < x < \frac{\pi}{2}$  の範囲にただ1つの解をもつ.

$$(3) f(x_n) = 0 \quad (0 < x_n < \frac{\pi}{2}) \text{ より } \sin x_n - nx_n^2 + \frac{1}{9}x_n^3 = 0 \quad \dots (*)$$

$$\text{ゆえに } \lim_{n \rightarrow \infty} x_n^2 = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \left( \sin x_n + \frac{1}{9}x_n^3 \right) = 0 \quad \text{よって } \lim_{n \rightarrow \infty} x_n = 0$$

$$\text{上式および } (*) \text{ から } \lim_{n \rightarrow \infty} nx_n = \lim_{n \rightarrow \infty} \left( \frac{\sin x_n}{x_n} + \frac{1}{9}x_n^2 \right) = 1 \quad \blacksquare$$

2 (1)  $t \neq 0$  のとき  $\sum_{k=0}^n t^k = \frac{1-t^{n+1}}{1-t}$  ゆえに  $\sum_{k=0}^n t^n - \frac{1}{1-t} = -\frac{t^{n+1}}{1-t}$

$t = -e^{-x}$  とおいて, 上式に代入すると

$$\sum_{k=0}^n (-e^{-x})^k - \frac{1}{1+e^{-x}} = -\frac{(-e^{-x})^{n+1}}{1+e^{-x}}$$

よって  $\sum_{k=0}^n (-1)^k e^{-kx} - \frac{1}{1+e^{-x}} = \frac{(-1)^n e^{-(n+1)x}}{1+e^{-x}}$

(2) (1) の結果から  $\frac{(-1)^n e^{-(n+1)x}}{1+e^{-x}} = 1 + \sum_{k=1}^n (-1)^k e^{-kx} - \frac{1}{1+e^{-x}}$   
 $= \sum_{k=1}^n (-1)^k e^{-kx} + \frac{e^{-x}}{1+e^{-x}}$

したがって

$$\begin{aligned} (-1)^n \int_0^1 \frac{e^{-(n+1)x}}{1+e^{-x}} dx &= \sum_{k=1}^n (-1)^k \int_0^1 e^{-kx} dx + \int_0^1 \frac{e^{-x}}{1+e^{-x}} dx \\ &= \sum_{k=1}^n (-1)^k \left[ -\frac{e^{-kx}}{k} \right]_0^1 - \left[ \log(1+e^{-x}) \right]_0^1 \\ &= \sum_{k=1}^n \frac{(-1)^k (1-e^{-k})}{k} - \log \frac{1+e^{-1}}{2} \quad \dots (*) \end{aligned}$$

よって  $S = \log \frac{1+e^{-1}}{2}$

(3)  $0 \leq \frac{e^{-(n+1)x}}{1+e^{-x}} \leq e^{-(n+1)x}$  であるから

$$\begin{aligned} 0 &\leq \int_0^1 \frac{e^{-(n+1)x}}{1+e^{-x}} dx \leq \int_0^1 e^{-(n+1)x} dx = \left[ -\frac{e^{-(n+1)x}}{n+1} \right]_0^1 \\ &= \frac{1-e^{-(n+1)}}{n+1} \leq \frac{1}{n+1} \end{aligned}$$

$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n+1} = 0$  から, はさみうちの原理により  $\lim_{n \rightarrow \infty} \int_0^1 \frac{e^{-(n+1)x}}{1+e^{-x}} dx = 0$

(\*) より  $\lim_{n \rightarrow \infty} \sum_{k=1}^n \frac{(-1)^k (1-e^{-k})}{k} - \log \frac{1+e^{-1}}{2} = 0$

よって  $\sum_{k=1}^{\infty} \frac{(-1)^k (1-e^{-k})}{k} = \log \frac{1+e^{-1}}{2}$  ■

**3** (1) 直角三角形  $OA_0H$  について  $\cos \theta = \frac{A_0H}{OA_0} = \frac{A_0H}{a_0}$

H は  $\triangle A_0B_0C_0$  の外心であるから、正弦定理により

$$\frac{a_0}{\sin 60^\circ} = 2A_0H \quad \text{ゆえに} \quad \frac{A_0H}{a_0} = \frac{1}{\sqrt{3}} \quad \text{よって} \quad \cos \theta = \frac{1}{\sqrt{3}}$$

$$\text{また} \quad \sin \theta = \sqrt{1 - \cos^2 \theta} = \sqrt{1 - \frac{1}{3}} = \sqrt{\frac{2}{3}}$$

(2)  $OA_1 = A_1B_1 = a_1$  より  $A_0A_1 = a_0 - a_1$   
 $A_1A'_1 = A_0A_1 \sin \theta = (a_0 - a_1) \sin \theta$  であるから、 $A_1B_1 = A_1A'_1$  のとき

$$a_1 = (a_0 - a_1) \sin \theta \quad \text{ゆえに} \quad a_1 = \frac{a_0 \sin \theta}{1 + \sin \theta}$$

$$\text{よって} \quad a_1 = \frac{\sqrt{\frac{2}{3}}}{1 + \sqrt{\frac{2}{3}}} a_0 = \frac{\sqrt{2}}{\sqrt{3} + \sqrt{2}} a_0 = (\sqrt{6} - 2) a_0$$

(3) (2) と同様にして  $a_{k+1} = (\sqrt{6} - 2) a_k$  ゆえに  $a_k = (\sqrt{6} - 2)^k a_0$

$$\text{したがって} \quad V_k = \frac{1}{2} a_k^2 \sin 60^\circ \cdot a_k = \frac{\sqrt{3}}{4} a_k^3 = \frac{\sqrt{3}}{4} (\sqrt{6} - 2)^{3k} a_0^3$$

$|\sqrt{6} - 2| < 1$  に注意して

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^{\infty} V_k &= \frac{\sqrt{3} a_0^3}{4} \sum_{k=1}^{\infty} (\sqrt{6} - 2)^{3k} \\ &= \frac{\sqrt{3} a_0^3}{4} \cdot \frac{(\sqrt{6} - 2)^3}{1 - (\sqrt{6} - 2)^3} = \frac{3\sqrt{2} - 2\sqrt{3}}{18} a_0^3 \end{aligned}$$

**4** (1)  $i, j = 1, 2, 3, 4$  とし、 $\vec{v}_i + \vec{v}_j$  が  $x$  軸と平行になる組み合わせは

$$\vec{v}_1 + \vec{v}_2 = \vec{v}_2 + \vec{v}_1 = (2, 0, 0)$$

$$\vec{v}_3 + \vec{v}_4 = \vec{v}_4 + \vec{v}_3 = (-2, 0, 0)$$

$$\text{したがって、求める確率は} \quad \frac{2! + 2!}{4^2} = \frac{1}{4}$$

- (2)  $\vec{e}_1 = (1, 0, 0)$ ,  $\vec{e}_2 = (0, 1, 0)$ ,  $\vec{e}_3 = (0, 0, 1)$  とおくと,  $\overrightarrow{P_0P_2}$  および  $\overrightarrow{P_2P_4}$  は, 次のベクトルからなる.

$$\begin{array}{ll} \vec{v}_1 + \vec{v}_1 = 2\vec{v}_1, & \vec{v}_2 + \vec{v}_2 = 2\vec{v}_2, \\ \vec{v}_3 + \vec{v}_3 = 2\vec{v}_3, & \vec{v}_4 + \vec{v}_4 = 2\vec{v}_4, \\ \vec{v}_1 + \vec{v}_2 = \vec{v}_2 + \vec{v}_1 = 2\vec{e}_1, & \vec{v}_1 + \vec{v}_3 = \vec{v}_3 + \vec{v}_1 = 2\vec{e}_2, \\ \vec{v}_1 + \vec{v}_4 = \vec{v}_4 + \vec{v}_1 = 2\vec{e}_3, & \vec{v}_2 + \vec{v}_3 = \vec{v}_3 + \vec{v}_2 = -2\vec{e}_3, \\ \vec{v}_2 + \vec{v}_4 = \vec{v}_4 + \vec{v}_2 = -2\vec{e}_2, & \vec{v}_3 + \vec{v}_4 = \vec{v}_4 + \vec{v}_3 = -2\vec{e}_1 \end{array}$$

$\vec{v}_j \cdot \vec{e}_k \neq 0$  であるから ( $j = 1, 2, 3, 4$ ,  $k = 1, 2, 3$ ),  $\overrightarrow{P_0P_2} \perp \overrightarrow{P_2P_4}$  となるのは,  $\overrightarrow{P_0P_2}$  および  $\overrightarrow{P_2P_4}$  が座標軸に平行で, 互いに垂直な場合について調べればよい. (1) の結果と同様に,  $\overrightarrow{P_0P_2}$  および  $\overrightarrow{P_2P_4}$  は,  $x$  軸,  $y$  軸,  $z$  軸と平行となる確率は  $\frac{1}{4}$  であるから, 求める確率は

$$\frac{1}{4} \cdot \frac{1}{4} \times {}_3P_2 = \frac{3}{8}$$

- (3)  $i \neq j$ ,  $j \neq k$ ,  $k \neq i$  のとき,  $\vec{v}_i, \vec{v}_j, \vec{v}_k$  は 1 次独立であるから,  $\overrightarrow{OP_1}, \overrightarrow{P_1P_2}, \overrightarrow{P_2P_3}$  がすべて異なる場合を除く確率であるから

$$1 - \frac{{}_4P_3}{4^3} = 1 - \frac{4 \cdot 3 \cdot 2}{4^3} = \frac{5}{8}$$

- (4)  $\vec{v}_i (i = 1, 2, 3, 4)$  の成分はすべて奇数である.

ゆえに,  $n = 1, 3, 5$  のとき,  $P_n = 0$  となる確率は 0

$\overrightarrow{P_0P_2}, \overrightarrow{P_2P_4}, \overrightarrow{P_4P_6}$  は (2) で求めたベクトルである.

ゆえに,  $n = 2, 6$  のとき,  $P_n = 0$  のとなる確率は 0

$n = 4$  のとき,  $P_n = 0$  のとなるのは,  $\overrightarrow{OP_2} + \overrightarrow{P_2P_4}$  が

$$\begin{array}{lll} 2\vec{e}_1 + (-2\vec{e}_1), & 2\vec{e}_2 + (-2\vec{e}_2), & 2\vec{e}_3 + (-2\vec{e}_3), \\ -2\vec{e}_1 + 2\vec{e}_1, & -2\vec{e}_2 + 2\vec{e}_2, & -2\vec{e}_3 + 2\vec{e}_3 \end{array}$$

の場合である. このとき, 求める確率は  $\frac{2}{4^2} \cdot \frac{2}{4^2} \times 6 = \frac{3}{32}$

よって, 求める確率は  $n = 1, 2, 3, 5, 6$  のとき 0,  $n = 4$  のとき  $\frac{3}{32}$

5 (1)  $\vec{OP} = (ct, 0)$ ,  $\vec{PQ} = (r \cos(\omega t - \frac{\pi}{2}), r \sin(\omega t - \frac{\pi}{2})) = (r \sin \omega t, -r \cos \omega t)$

したがって  $\vec{OQ} = \vec{OP} + \vec{PQ} = (ct + r \sin \omega t, -r \cos \omega t)$

よって  $Q(ct + r \sin \omega t, -r \cos \omega t)$

(2)  $(x(t_1), y(t_1)) = (x(t_2), y(t_2))$  ならば  $t_1 = t_2$  であるための必要十分条件を求めればよい. (1)の結果から,  $(x(t_1), y(t_1)) = (x(t_2), y(t_2))$  のとき

$$ct_1 + r \sin \omega t_1 = ct_2 + r \sin \omega t_2, \quad -r \cos \omega t_1 = -r \cos \omega t_2$$

上の2式から

$$r(\sin \omega t_2 - \sin \omega t_1) = c(t_2 - t_1), \quad r(\cos \omega t_2 - \cos \omega t_1) = 0$$

したがって

$$\begin{aligned} c^2(t_2 - t_1)^2 &= r^2(\sin \omega t_2 - \sin \omega t_1)^2 + r^2(\cos \omega t_2 - \cos \omega t_1)^2 \\ &= 2r^2\{1 - \cos \omega(t_2 - t_1)\} \\ &= 4r^2 \sin^2 \frac{\omega(t_2 - t_1)}{2} \end{aligned}$$

ここで,  $\theta = \frac{\omega(t_2 - t_1)}{2}$  とおくと

$$c^2 \left( \frac{2\theta}{\omega} \right)^2 = 4r^2 \sin^2 \theta \quad \text{ゆえに} \quad \frac{c}{r\omega} |\theta| = |\sin \theta|$$

これが  $\theta = 0$  以外に解をもたない条件, すなわち, 方程式

$$\left| \frac{\sin \theta}{\theta} \right| = \frac{c}{r\omega} \quad \dots (*)$$

が解を持たない条件を求めればよい.  $f(\theta) = \frac{\sin \theta}{\theta}$  とすると,  $f(-\theta) = f(\theta)$  であるから,  $\theta > 0$  について調べる.

$$\lim_{\theta \rightarrow +0} \frac{\sin \theta}{\theta} = 1$$

$y = \sin \theta$  と  $y = \theta$  のグラフから,  $0 < \theta \leq \pi$  のとき

$$\theta > \sin \theta \quad \text{ゆえに} \quad \frac{\sin \theta}{\theta} < 1$$

$\theta > \pi$  のとき  $\left| \frac{\sin \theta}{\theta} \right| < \frac{1}{\pi}$  したがって  $\left| \frac{\sin \theta}{\theta} \right| < 1$

(\*) が解をもたないとき  $\frac{c}{r\omega} \geq 1$  よって  $c \geq r\omega$  ■